

大内まちづくり協議会だより



vol.63

2024年1月1日

人口	23,146人	男性	11,078人
世帯	10,514世帯	女性	12,068人



上の写真は、昨年の11月26日に大内地域交流センターの駐車場を会場に、第二回おおうち産業フェアを開催したときの様子です。

大内地域に事業所がある企業や地域で活動している団体から、事業内容の紹介や生製品の販売、体験活動などを提供いただきました。

今回も晴天に恵まれ、前回より6つ多い22の企業や団体の方の参加で、大変盛り上がりました。

また、ステージ企画として「取材報告会」と「クイズ」を、小・中学生が行ってくれました。さらに、スタンプリーやクイズの景品を、参加いただいた企業さんから提供いただきました。ありがとうございました。

あけまして
おめでとう ございます。
今年もよろしく願っています。

写真で見る、第2回おおうち産業フェアの様子



今年も日産の電気自動車の電気を使って、子ども会が綿菓子づくりに挑戦



自衛隊の高機動車も登場



ステージ上で開会式



旨味屋さんの前には長蛇の列



ブラジルコーヒーの販売もありました 手づくり工房・幸では指で編み物に挑戦



〈出展いただいた企業・団体の皆様〉

(株)ゆだ・山口日産自動車(株)山口大内店・株式会社MIHORI・萩山口信用金庫大内支店・御堀支店・山口県建設労働組合山口支部・てるみんガーデンファーム・旨味屋・JA山口県大内支所・大内ブルーベリー生産部会・主穀班・葉ボタンの会・ふれあい市・(有)中村民芸社・大内子ども会育成連絡協議会・食生活改善推進協議会山口支部大内地区・手づくり工房・幸・山口県ブラジル親善協会・自衛隊山口地方協力本部山口募集案内所・大内まちづくり協議会健康福祉部会・山口そうごう自動車学校・(株)ミッドフォー・ホンダカーズ光東山口東店



JA大内支所では農機具の展示やアンパンマン・よりそうもいたよ



そうごう自動車学校の教習車も来たよ



建設組合の親子木工教室



(株)ミッドフォーのかわいい車に乗車



ブルーベリー生産部会の着ぐるみ登場



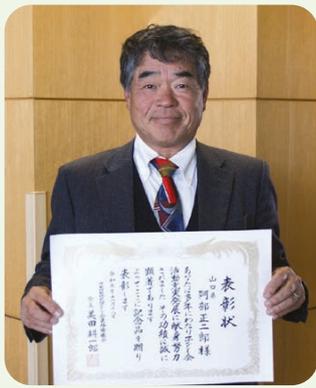
中村民芸社の指導で大内塗りに挑戦



ちょっといい話

11月2日、令和5年度の山口市功労者表彰式があり、大内地域から左の写真の7名の方が表彰されました。
 自治功労者表彰の瀧川勉さんは大内連合自治会長10年、社会功労者表彰の小林和弘さんは民生委員15年、保健衛生事業功労者表彰に5人の食推の方（大田和江さん、國清英子さん、佐々木泉さんが食生活改善推進員22年、松本美千代さんが石田富美さんが食生活改善推進員20年）が表彰されました。
 皆さん、長年にわたり、それぞれの分野で献身的に活動されておられたことを受けての表彰です。本当におめでとうございました。

11月18日、山口県保健センターで行われた中国・四国地区子ども会育成研究協議会で、26年間子ども会活動に取り組まれている阿部正二郎さんが表彰されました。



11月25日、山口銀行山口支店で、小さな親切運動実行者表彰式がありました。下矢田地区の山本柚花さん、京子さん親子の婦人救活活動は昨年度にも紹介していますが、今回、小さな親切行為実行者として、表彰されました。



大内子育て応援&みんなで語ろう会

健康福祉部会の取組

11月20日に、子育て世代の方を対象にしたみんなで語ろう会を、気象防災士である、坂本京子先生をお招きして、「家族を守るための防災」というお話を聞いて、日頃から準備しておくことについて、グループで話し合いました。防災の3要素「自助・共助・公助」のうち、「自助」の重要性について、みんなで確認しました。



非常持ち出し袋の中身（防災グッズ）の例

健康福祉部会からのお知らせ

令和6年1月20日(土) 10:00~12:00
 大内地域交流センター2階講堂

みんなで語ろう!

今回も福田百合子先生をお招きして、「ともに安心して暮らすには」というテーマで、みんなで話したいと考えています。福田先生からは、「そばにいるよ!」と言葉に出して」という演題の講演をいただく予定です。



第5回大内元気あつぷ健康講座

11月28日の元気あつぷ健康講座では、市の保健師である中尾菜摘さんから「口」対策についての講話を聞いた後に、各自、この健康状態を振り返りました。



第30回大内地区じんけん学習まちづくり大会



講演会
演題「二階を照らす自分の持ち場で一生懸命」
講師 落語家 天台宗僧侶 露の団姫様

11月12日(日)に、第30回大内地区じんけん学習まちづくり大会が大内小体育館で行われました。
今年度の児童生徒による意見発表は、大内小の三輪柚里さん、大内南小の森山恵菜さん、大内中の兒玉理奈さん、山口中央高校の西村奏音さんの4人で、いずれも体験を通して気づいた人権課題について、しっかりと自分の意見を述べていました。
講演は、二階を照らす自分の持ち場で一生懸命」という演題で、落語家であり、天台宗の僧侶の「露の団姫」さんから、笑いの中にも考えさせられる貴重な話がありました。



育児学級「親子で残そう!手形・足形ぺったんアート♪」

- ◆日時 2月13日(火) 10:00~11:30
- ◆場所 大内地域交流センター 2階講堂
- ◆対象者 乳幼児とその保護者 15組程度
- ◆内容
 - ・手型、足型をとって折り紙やシールでかざりつけ
 - ・食推さんによる子どものおやつのお取り方のお話(手作りおやつのお土産があります!)
- ◆申込先 大内地域交流センター ☎927-0473
- ◆申込期間 1月15日(月)8:30~1月31日(水)まで
- ◆主催 山口市母子保健推進協議会大内地区
- ◆共催 山口市食生活改善推進委員大内地区



参加無料

※当日、体調不良の方は参加をご遠慮ください。また、参加時には感染予防対策にご協力ください。
※申込時にお子様の年齢(月齢)をお知らせください。

子育てサロン “大きくなあれ” 「まめまき」のご案内

- 「おには〜そと。ふくは〜うち。」
親子で節分行事を楽しみましょう!
- ◆日時 1月24日(水) 10:30~1時間程度
 - ◆場所 大内地域交流センター 2階 和室
 - ◆対象者 未就園児(3歳未満)とその保護者 先着15組
 - ◆内容 おにのお面作り みんなで赤鬼、青鬼をやっつけよう!
 - ◆申込 大内地域交流センター ☎927-0473 (申込締切 1月17日(水))
 - ◆主催 子育てサロン おおきなあれ
※当日は、マスクの着用をお願いします。
- ※感染症の状況により、中止になることがあります。ご了承ください。

参加無料

新刊図書

雇足軽 八州御用	辻堂 魁
和田秀樹の「親塾」 心とからだの問題解決!編	和田 秀樹
料理家たちの絶品レシピ。	マガジンハウス
まじよのすいぞくかん	佐々木 マキ
素敵な圧迫	呉 勝浩

「ぶっくん」運行予定表 (1月)

大内地域交流センター (10:30~11:10)
17日・31日 (水)

【発行・編集】

大内地域交流センター・大内まちづくり協議会

- 大内地域交流センター
(地域担当) TEL 083-927-0473
FAX 083-927-0475
(行政窓口) TEL 083-927-0301

- 大内まちづくり協議会事務局 TEL 083-996-5798
《住所:〒753-0221 山口市大内矢田北一丁目10番11号》

Check it!!

大内地域交流センター
インスタグラム

大内まちづくり協議会HP

<http://www.ohuchi-machizukuri.com/>

大内まちづくり協議会

【カラー版おうちだよりが見れます!】



OHUCHI.HOURYUCENTER



十一月十二日に行われたじんけん学習まちづくり大会での四人の意見発表の作文を紹介します。

「自分もみんなも大切に」

大内小学校 六年 三輪 柚里

私は、低学年の頃、両親が仕事のため、うえき学級からいつも一緒に祖父母の家に帰っていました。その家には、ひいおばあちゃんも住んでいました。ひいおばあちゃんは、時々デイサービスに行ったり、お泊りしたりする日もありましたが、普段は家にいて、ベッドかダイニングで過ごしていました。足が悪く車いすだったので、誰かに押してもらわないと行きたい所には行けません。だから、私はいつもゆつくり押してあげていました。ごはんは、小さい子どもが食べるような物と似ていて、小さいサイズのおにぎりやわらかく煮た野菜やりんごを、少し太くて握りやすいスプーンや手で、「えんぐつちよ、えんぐつちよ」と、くり返し言って食べていたことをよく思い出します。

私が住むこの大内地域には、赤ちゃんからご高齢の方までたくさん住んでいます。出身地や家庭の環境、考え方が違う人も、たくさんいると思います。自分と年齢が離れ、考え方も違う人には、ちょっと思い切って勇気を出してみないと、そして相手のことを知ってみようという気持ちがないと、分かり合うことができないのかなと思います。でも、一つひとつ丁寧に聞いてみて考え、少し工夫をすることで、私のひいおばあちゃんのような

困りごとがある人でも、暮らしやすくなると思います。

社会の変化により、新しい人権の問題も出てきています。LGBTやSNS、ヤングケアラーについての問題を身近な大人に教えてあげると、「最近はそのようなことがあるんだね。」と、少し難しい顔をしながらも聞いてくれます。だから、人権の問題について話し合うことも良いことだと思います。これから先、私が大人になってからも、色々な人権の問題が出てくると思います。でも、そのような時にこそ私は、ひいおばあちゃんが言ってくれていた、「自分のことを大切に。」という言葉に、誰にでも当てはめて考えたいです。それは、「みんなが自分を大切にしていれば生きていく。」という意味ではなく、「自分を大切にすることと同じように、他の人にも心や気持ちがあることを忘れず、違いや個性を認め合い、助け合って生活する。」ということです。他の人のことを気にかけて、思いやることが当たり前にできる、素敵な大内の町をみんなと一緒につくっていききたいです。

「立場について考えているの?」

大内南小学校 六年 森山 恵菜

みなさんは、日本の学校でどのくらいの数のいじめが報告されているか知っていますか?

か?

令和四年度では小学校だけでも、年間五十五万九千四百四十四件も起きているそうです。

これから、私が経験して思ったことを、お話しします。

席替えの時、となりになった人に、「あいづきらい。」と、私にも聞こえる声で言われました。とても嫌な気持ちになりました。この言葉が心に残り、その人と話しづらくなつたことがあります。この時の私は、いじめをされた立場でした。

反対に、友達に意地悪なことを言ってしまったったり、意地悪なことをしてしまったりしたことがあります。その後、後悔したことを覚えていきます。この時の私は、いじめをしてしまった立場です。

別の日に、友達が悪口をかけて話しているのが聞こえてきました。でも、その時、私はだまって聞いているだけで、注意することができませんでした。今でも、あの時なにか言えていたらと考えることがあります。この時の私は、いじめを見逃してしまった立場です。

このようにいじめは、いじめられる立場、いじめめる立場、そして、いじめを見逃してしまふ立場があり、その時々によって立場が入れ替わります。三つの立場を経験した私は、どの立場になっても気持ちいいものではなく、心にモヤモヤが残りました。

世の中には、いじめのせいで自分から命を絶とうとする人もいます。こんなに悲しいことは、絶対にあつてはならないことだと思っています。

今、日本には、メンタルヘルスのケアができる施設があります。いじめられた人だけでなく、いじめをしてしまった人も思いを言える場所ですが、ここは、いじめがエスカレーターした後に行く人が多いのではないかと思います。

私は、将来カウンセラーになりたいと思っています。みんなが悩みや不安をかかえ過ぎないように、気軽に行けるような場所を作りたいです。

そして、みんながお互いの立場を考え、相手の気持ちを思い合うことができる、社会にしていきたいです。

「良いところを見つけよう」

大内中学校 二年 兒玉 理奈

人権という言葉をよく耳にしますが、自身の問題として考えることは少ないのではないのでしょうか。人権とは、「人が人として、社会の中で、自由に考え、自由に行動し、幸福に暮らせる権利」とされています。全ての人が生まれながらに持っている権利です。

小さい時、私は泣き虫で苦手なことが多く、自分に自信が持てませんでした。自己表現も苦手で、小学校でも特定の友達とばかり話していました。けれど、家族は私の頑張りを認めてくれ、いつも褒めてくれました。苦手なことに少しずつ取り組み、小さな成功体験を積み重ねることで、自信につながりました。小学校二年生で文集を作った時、クラスメイトひとりひとりに一言メッセージを書いて

送り合いました。メッセージの中でも、「いいつもやさしいね」「字がきれいだね」「勉強が得意ですごいね」などと私を褒めてくれるメッセージが目にとまり、嬉しくて心が温かくなったことを覚えています。それから、私も友達の良いところを見つけてることを意識するようにし、それを口に出して相手に伝えるようにしました。高学年になる頃には、以前よりも積極的に友達と関われるようになりました。楽しいことを言って笑わせてくれる

明るい友達、みんなをまとめてくれるしっかり者の友達、何事にも一生懸命に取り組む頑張り屋の友達など、友達にもいろいろタイプがあります。ひとりひとりとよく向き合い、その人の良いところを見つけてること、その良さを認めることが大切だと私は思います。

私には、特別支援学級に在籍する、小学五年生の弟がいます。弟は、一見ただけではその特性や苦労が分かりにくいので、私も友達から「どうして弟は支援学級にいるの?」とよく尋ねられることがあり、「不安や緊張が強いから、安心できる環境が必要なんだよ」と答えていました。弟はとても真面目で学習にも集中して取り組みます。けれど、不安や緊張が強く、分らないことや失敗すること、を極端に怖がります。また、友達との関係づくりやコミュニケーションを取ることも苦手なため、弟の個性や能力を伸ばし、発揮できるように、特別支援学級で適切なサポートを受けながら学校生活を送っています。

弟は、意思疎通を図ることに困難を伴うものの、とても思いやりがあり、人が嫌がることは決して言いません。そのような弟の良いところをもっと周りの友達に知ってもらいた

いと私はいつも思っています。先入観や偏見があると、その気持ちが邪魔をして、相手の良いところを見つけてることが難しくなってしまう。だからこそ、まずは、それらを取り払った上で、相手と関わるのが何より大切ではないでしょうか。

金子みずぶさんが「鈴と小鳥とそれから私、みんなちがってみんないい」とうたっているように、地球上には何一つとして同じものはなく、それぞれ違うからこそ大切で、素晴らしいのです。

人には、誰にも得意なこと、不得意なことがあります。自分が不得意なことが誰かの得意なことかもしれないし、またその逆もあるでしょう。自分が困っている時は誰かに助けをもらい、誰かが困っている時は自分が手を差し伸べる、そうやって助け合うことが当たり前にできる社会になることを願っています。

「自分の個性を大切にすること」

山口中央高校 二年 西村 奏音

今皆さんは私の話し方が「普通の人と違うな」と思いますか?私がかうして人前に出て自信を持って話せるようになるなんて、昔の自分には想像ができませんでした。

私には吃音という一つの個性があります。吃音とは、話すときに初めの言葉が出てこないどもりが起こったり、次に話す言葉が出てこないから同じ言葉を繰り返してしまったりすることです。私は幼いころから吃音があつ

たらしいのですが、私自身は小学六年生の時に自分の話し方が吃音のせいだと人と違うということに気づきました。はじめは自分の吃音がほんとに嫌でした。そのせいでどんどん人前で話すことへの自信もなくなっていきました。でも、私は、人前で発表することや人と話すことが好きだったので、吃音ばかり気にしている楽しくないと思い、吃音を自分の一つの個性として受け入れようと考えました。ただ、私の中で吃音は個性と違って、私も、みんなと同じようにうまく話せなかつたらどうしようかと常に考えてしまい、人前で話すことを極力避けるようになっていました。

私は自分自身の体験を通じて感じたことは、みんなが持っている個性は他人の何気ない一言や失敗を経験することで自分に自信が無くなり、簡単にコンプレックスへ変わってしまうということ。反対に自分の受け止め方次第で自分のコンプレックスは個性に変えられることも学びました。人の数だけ個性があります。自分の好きなところも嫌いなところも自分が持っているものはすべて個性です。自分の嫌いなところをコンプレックスにするのではなく、人との違いを一つの個性として尊重してもらいたいです。そして、もし誰かの個性について気になることがあっても絶対に自分基準で人を判断しないでほしいです。個性は人それぞれあるから色々な人がいて、毎日がとても楽しくなっているのだと思います。一人ひとりが自分の個性とみんなの個性を大切にしながら行動することで、人権を尊重する社会を実現することにつながっていくと思います。

そんな時に一人の友達から、「なんか話し方おかしいよね」と言われました。友達が何気なく言ったその一言は、私の話し方は他の人からするとやはりおかしいと感じているのだと思います。その時から、以前は個性と思っていた吃音が私の中でコンプレックスに変わってしまいました。そんな私がかう一度自分の個性として吃音を受け入れられるようになったのは、中学校での生徒会活動がきっかけでした。生徒会活動では、行事の時やお昼の放送など大勢の人を前にして話す機会が多くありました。はじめは周りの人に、またいつ私の話し方に対して心無い言葉を言われるのではないかと不安が消えることはありませんでした。ある日、生徒会の仕事であるお昼の放送の時に私は吃音になつてしまいました。話せなかつたかやしさと同時に自分の吃音のことをほんとに憎みました。「なぜうまく話せないの?」と自分を責めました。私は本当に苦しくなつて、保健室の先生や仲のいい友達に自分の吃音のこと